

海業の取組 事例集

水産庁漁港漁場整備部
令和5年8月

海業の取組事例集 目次

	都道府県	市町村	漁港名	漁港管理者	取組主体	取組種類	キーワード	離島半島等
1	北海道	八雲町	熊石漁港	都道府県	漁業協同組合	④	サーモン海面養殖実証試験	半島、過疎
2	北海道	根室市	歯舞漁港	都道府県	漁業協同組合	①③⑤	市場見学、漁業体験、漁協食堂、直売所、渚泊、パノラマクルーズ	過疎
3	北海道	北斗市	北斗漁港	都道府県	漁業協同組合	③	水揚げされた貝類を食べられるイトイン型直売所	半島
4	青森県	深浦町	北金ヶ沢漁港	都道府県	漁業協同組合	④	消波堤背後に生け簀を設置し、サーモンの海面養殖	過疎
5	岩手県	大槌町	吉里吉里漁港	都道府県	漁業協同組合	④	漁港の水域の活用、サーモンの海面養殖の実施	過疎
6	宮城県	気仙沼市	気仙沼漁港	都道府県	民間団体	②	水上自転車、ハンドパドルボート、水上ピクニック	過疎
7	山形県	鶴岡市	由良漁港	都道府県	民間団体	①②③	自然体験、食の体験、マリンレジャー	過疎
8	新潟県	佐渡市	多田漁港	市町村	民間団体	④	海洋深層水を活用したエゾバフンウニの陸上養殖	離島、過疎
9	新潟県	佐渡市	姫津漁港	都道府県	漁業協同組合	②③	防波堤を釣り利用に開放、漁協直売所	離島、過疎
10	富山県	黒部市	石田漁港	市町村	漁業協同組合	②	フィッシャリーナ、釣り棧橋、イベント開催	
11	富山県	富山市	水橋漁港	市町村	NPO法人	②	フィッシャリーナ、海洋レクリエーション拠点	
12	富山県	氷見市	氷見漁港	都道府県	民間団体	①③	グランピング施設、BBQ	半島、過疎
13	静岡県	焼津市	焼津漁港	都道府県	地方公共団体等	①②③⑤	リノベーション、飲食・宿泊施設の整備、ワーケーション、朝市、釣り体験、水揚げ・セリ見学	
14	大阪府	田尻町	田尻漁港	都道府県	漁業協同組合	①②③	漁業体験、海鮮BBQ、カキ小屋、朝市、海上釣り堀、マリーナ事業	
15	和歌山県	太地町	太地漁港	市町村	漁業協同組合	①②③	クジラとふれあう体験、シーカヤック、道の駅(直売所、レストラン、朝市)	半島、過疎
16	和歌山県	有田市	箕島漁港	市町村	漁業協同組合	③	飲食施設、販売施設	半島
17	鳥取県	境港市	境漁港	都道府県	地方公共団体	③⑤	漁港・市場見学、境港水産物直売センター	
18	広島県	福山市	横田漁港	都道府県	漁業協同組合	②③	プレジャーボート用浮棧橋	
19	福岡県	糸島市	船越漁港	市町村	漁業協同組合	③	常設のカキ小屋の整備	
20	福岡県	北九州市	脇田漁港	市町村	漁業協同組合	②	釣り棧橋、人工海浜、フィッシャリーナ、水産物直販	
21	福岡県	宗像市	鐘崎漁港	市町村	漁業共同組合	③	活魚センター、道の駅	
22	熊本県	天草市	二江漁港	都道府県	地方公共団体	②③	イルカウォッチング、水産物直売、レストラン	半島、過疎
23	宮崎県	日南市	目井津漁港	都道府県	漁業協同組合	③	漁協直営施設レストラン、直販施設	半島、過疎
24	沖縄県	伊江村	具志漁港	市町村	漁業協同組合	①②	釣り体験、漁業体験、ハーリー体験、民泊	離島、過疎

※取組の種類：①渚泊・体験・観光 ②釣り、マリンレジャー ③飲食、販売 ④漁港活用の増養殖 ⑤市場・加工

海業の取組事例の地図

① 渚泊・体験・観光

② 釣り、マリレジャー

③ 飲食、販売

④ 漁港活用の増養殖

⑤ 市場・加工

複合的な取組

凡例

● 今回 紹介事例

脇田漁港

鐘崎漁港

船越漁港

二江漁港
②③

貝志漁港
①②

目井津漁港

横田漁港
②③

箕島漁港

太地漁港
①②③

田尻漁港
①②③

境漁港
③⑤

氷見漁港
①③

石田漁港
水橋漁港

姫津漁港
②③

多田漁港

由良漁港
①②③

北金ヶ沢漁港

熊石漁港

北斗漁港

吉里吉里漁港

気仙沼漁港

歯舞漁港
①③⑤



	都道府県	市町村	漁港名	取組種類
①渚泊・体験・観光				
2	北海道	根室市	歯舞漁港	①③⑤
7	山形県	鶴岡市	由良漁港	①②③
12	富山県	氷見市	氷見漁港	①③
13	静岡県	焼津市	焼津漁港	①②③⑤
14	大阪府	田尻町	田尻漁港	①②③
15	和歌山県	太地町	太地漁港	①②③
24	沖縄県	伊江村	具志漁港	①②
②釣り、マリンレジャー				
6	宮城県	気仙沼市	気仙沼漁港	②
7	山形県	鶴岡市	由良漁港	①②③
9	新潟県	佐渡市	姫津漁港	②③
10	富山県	黒部市	石田漁港	②
11	富山県	富山市	水橋漁港	②
13	静岡県	焼津市	焼津漁港	①②③⑤
14	大阪府	田尻町	田尻漁港	①②③
15	和歌山県	太地町	太地漁港	①②③
18	広島県	福山市	横田漁港	②③
20	福岡県	北九州市	脇田漁港	②
22	熊本県	天草市	二江漁港	②③
24	沖縄県	伊江村	具志漁港	①②

	都道府県	市町村	漁港名	取組種類
③飲食、販売				
2	北海道	根室市	歯舞漁港	①③⑤
3	北海道	北斗市	北斗漁港	③
7	山形県	鶴岡市	由良漁港	①②③
9	新潟県	佐渡市	姫津漁港	②③
12	富山県	氷見市	氷見漁港	①③
13	静岡県	焼津市	焼津漁港	①②③⑤
14	大阪府	田尻町	田尻漁港	①②③
15	和歌山県	太地町	太地漁港	①②③
16	和歌山県	有田市	箕島漁港	③
17	鳥取県	境港市	境漁港	③⑤
18	広島県	福山市	横田漁港	②③
19	福岡県	糸島市	船越漁港	③
21	福岡県	宗像市	鐘崎漁港	③
22	熊本県	天草市	二江漁港	②③
23	宮崎県	日南市	目井津漁港	③
④漁港活用の増養殖				
1	北海道	八雲町	熊石漁港	④
8	新潟県	佐渡市	多田漁港	④
4	青森県	深浦町	北金ヶ沢漁港	④
5	岩手県	大槌町	吉里吉里漁港	④
⑤市場・加工				
2	北海道	根室市	歯舞漁港	①③⑤
13	静岡県	焼津市	焼津漁港	①②③⑤
17	鳥取県	境港市	境漁港	③⑤

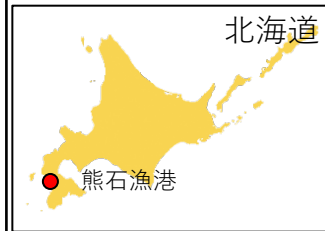
※なお「漁港施設の有効活用ガイドブック（令和3年8月公表）」についても
 下記URLにて引き続き公表しておりますので取り組みの参考として下さい。
 【https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_guideline/index.html】

1. 静穏水域を活用したサーモン海面養殖試験：熊石漁港（北海道八雲町）

④漁港活用の増殖場

概要

- 主要魚種の不漁、漁獲金額減少等の課題を踏まえ、八雲町（熊石地域、落部地域）において、北海道初となるトラウトサーモンの海面養殖プロジェクトが令和元年12月にスタート
- 養殖サーモンは北海道二海（ふたみ）サーモンと名付けてブランド化が進められており、道内の大型小売店、回転寿司店、ホテルレストランや町内小中学校の給食等に提供するほか、ふるさと納税の返礼品となっている。



海業の取組概要

熊石漁港（八雲町）航空写真

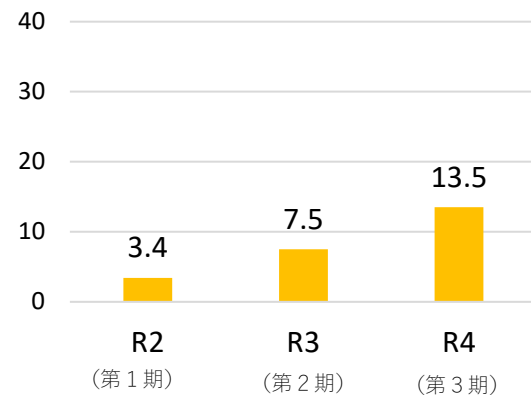


- 漁港内の静穏域を活用して養殖イケスを設置
- これまで、東北の企業から幼魚を購入し育成していたが、養殖サーモンの一貫生産、コスト縮減等を目指し、令和4年に種苗生産施設を取得し、当該施設を活用して種卵から幼魚の育成を開始
- 取組主体
ひやま漁業協同組合熊石支所・サーモン養殖部会・八雲町



効果

北海道二海サーモン生産量（t）
※生産量データ 八雲町サーモン推進室



※R5の目標は30t

・第3期（R3.11～R4.6）の生産量は13.5t（4,100匹余り。熊石・落部合算）にまで増加。

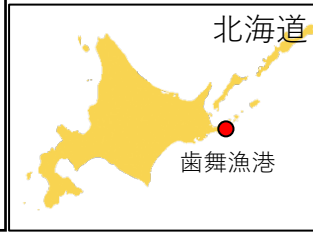
・種苗生産施設の取得による幼魚生産により、今後更なる拡大が見込まれる。

2. 漁協施設の整備と漁業体験プログラムによる新たな集客と販売力強化:歯舞漁港(北海道根室市)

概要

○従来より、歯舞漁協では、漁業者宅での渚泊や漁港を発着拠点とするパノラマクルーズを実施している。また、旅行会社と連携し、潮干狩り、地曳網等の漁業体験や漁協食堂での食事、直売所立ち寄りをセットにしたツアーを企画するなど、地域の漁業資源を活用した都市漁村交流活動を行ってきた。

○さらに、加工・保管・直販の機能が一体となったコンブ加工保管施設と市場見学スペースを新たに整備し、令和4年8月より供用を開始したことで、見学ツアーを充実させた。



海業の取組概要



コンブ加工保管施設の見学



渚泊



●コンブ加工保管施設と市場の見学

- ・セリの模様やコンブの加工や保管の状況が見学でき、地域水産物をPR。

●パノラマクルーズ

- ・本土最東端のパノラマクルーズで、多言語対応の翻訳機付き拡声器とタブレットを導入し、米国やアイルランド、シンガポール等から多くの外国人が来訪。

●漁業体験、渚泊

- ・地曳網や潮干狩りなどの漁業体験や渚泊を通じて、漁業に対する理解を深めてもらうほか、歯舞地域に愛着をもってもらい、交流人口の拡大に寄与。



パノラマクルーズの拠点



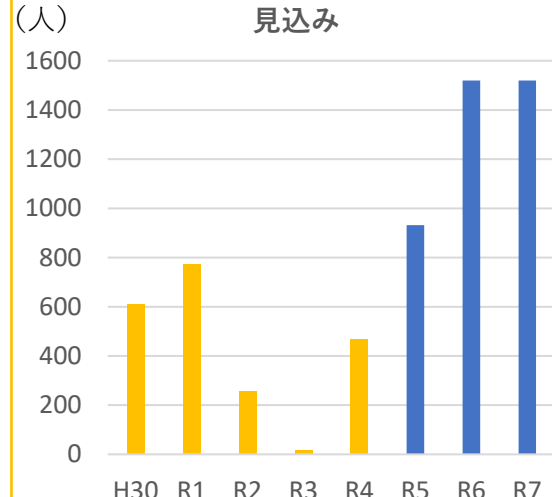
地曳網体験



市場の見学

効果

市場見学、パノラマクルーズ、渚泊等による集客人数の実績と見込み



※R2~R4は新型コロナウイルスの影響により減少

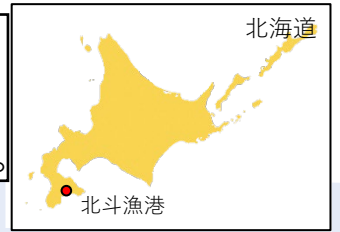
- ・施設整備により、ツアー集客数の増大と地域水産物PRの強化、直販事業の収益向上を図っていく。

3. 水産物直売所による漁港施設用地の有効利用：北斗漁港（北海道北斗市）

③ 飲食、販売

概要

- 北海道新幹線開業による観光客の増加を見越し、漁業者の減少により利用が見込めない港施設用地の財産処分を行い、漁協直営のイトイン型直売施設を開設。
- 直売事業による水産物価格の安定及び地元消費の拡大により漁業者の収益向上が図られる。



海業の取組概要



効果

客入数 (R1)

年平均客入数 47人/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
営業日数	25日	24日	26日	25日	25日	23日
客入数	1,448人	1,793人	1,459人	1,382人	1,792人	1,357人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
営業日数	26日	24日	25日	23日	25日	19日	290日
客入数	1,154人	775人	696人	621人	841人	436人	13,754人

- ・水産物の消費拡大や漁業者の収益向上が図られる

財産処分申請 $A=2,274.53\text{m}^2$

- ・漁船保管施設用地 $A=1,138.55\text{m}^2$
- ・漁具保管修理施設用地 $A=1,135.98\text{m}^2$

● 北斗フィッシャリー

- ・地元漁業協同組合直営のレストラン。
- ・津軽海峡に面した店内の窓からは函館山を間近に眺めながら、新鮮な貝類を、その場で蒸し焼きにして食べられる。
- ・函館市からの来客や北海道新幹線開業により本州からのツアーにも利用されている。

4. サーモン海面養殖業による「つくり育てる漁業」の推進：北金ヶ沢漁港（青森県深浦町）

④漁港活用の
増殖場

概要

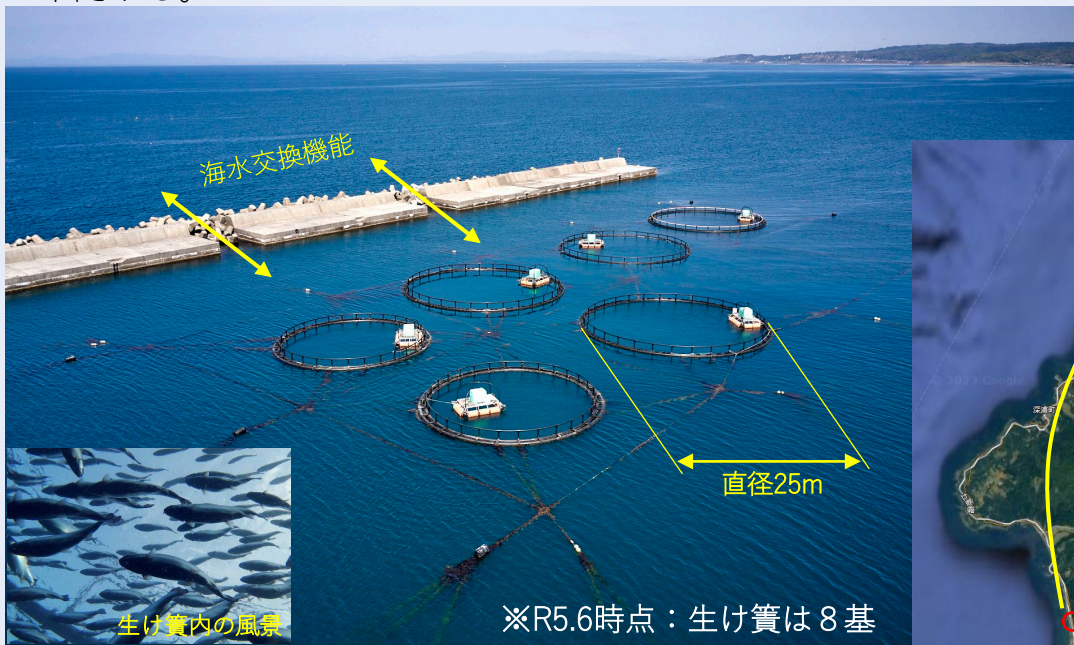
- 近年、回遊性魚種の不漁により、これらに依存しない増養殖や蓄養など「つくり育てる漁業」への展開が求められている。
- こうした中、新深浦町漁業協同組合は、深浦町の支援（単独費による孵化場の建設）のもと、既設消波堤背後を有効活用したサーモン海面養殖業を令和元年度から開始している。
- 従来の海面漁業に加え、海面養殖業を実施し、つくり育てる漁業の推進で陸揚量及び陸揚金額が増加している。



海業の取組概要

●北金ヶ沢漁港区域内のサーモン海面養殖業

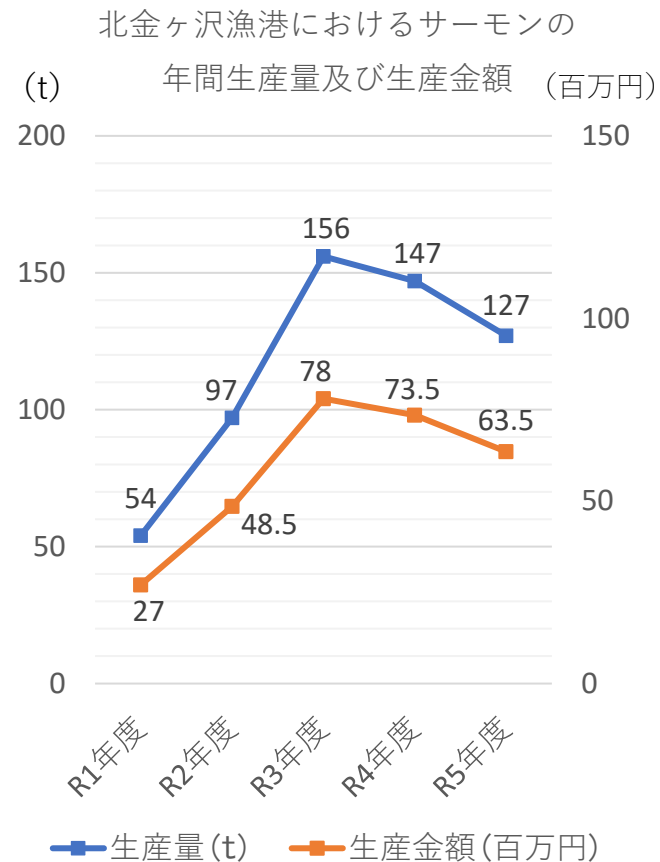
- ・サーモン海面養殖を実施するにあたり、斃死を防ぐためには「酸素濃度」、「水温」及び「水深」が重要となる。過去に整備した海水交換機能付きの消波堤背後を有効活用することで、サーモンの安定生産を図る。
- ・水揚げされたサーモンは、国内のスーパーや回転寿司へ出荷、海外（アジア圏）に輸出される。



※R5.6時点：生け簀は8基



効果



5. サーモン養殖等の地域資源を活かした産業・観光・教育振興：吉里吉里漁港(岩手県大槌町)

概要

- 吉里吉里漁港付近の海域において試験的に始まったサーモン養殖は、令和4年4月より民間企業にて岩手大槌サーモン養殖事業として、吉里吉里漁港で水揚げ作業や飼料積み込み作業等が行われている。
- 令和5年度の水揚げ予定は700tであるが、令和9年度には2,000tの水揚げを目指していく計画である。増産計画に伴い、使用する飼料も現状の863tから2,580tに急増する見込みである。
- サーモン養殖事業のほか、吉里吉里漁港周辺では、藻場再生活動やダイビングを活用した体験型イベント、地引き網等の漁業体験、海洋環境保全に関する教育旅行の受け入れ、ウニの蓄養実証事業等が行われており、吉里吉里漁港周辺を中心に既存の取組が一体となった海業振興を展開していく予定。



海業の取組概要



【漁港を活用した増養殖】

- 「岩手大槌サーモン」海面養殖の拡大
 - ・ 選別水揚げ施設、飼料漁具倉庫、種苗馴致施設、一次処理加工施設の整備

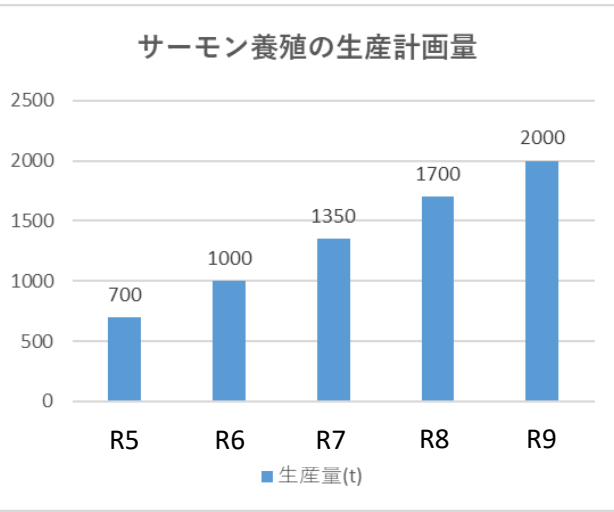
【観光振興】

- 「藻場再生体験」「スキューバダイビング」等を活用した交流人口増
 - ・ マリンレジャー、地引網等の漁業体験、渚泊等
- 「藻場再生」「ウニ蓄養」による漁業者の収入増
 - ・ 漁港周辺の静穏域を活用したウニ蓄養事業
 - ・ 藻場再生による磯焼け対策、磯根資源の漁獲量増

【小中高生を対象とした海洋教育】

- 学校教育の場での「海業」の理解、普及
 - ・ 出前授業、課外授業による担い手確保等

効果



試験養殖が始まった令和2年度は、85tの水揚げであったが、民間企業による養殖事業が始まった令和4年度には、351tの水揚げとなった。令和9年度には2,000tの水揚げを目指し、養殖生簀を現在の7基から20基へ増やす予定。



地引き網体験ツアーの取組状況



藻場再生の取組状況



サーモン養殖生簀

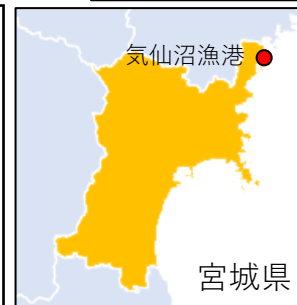


サーモン水揚げ状況

6. 「気仙沼まちなかエリアビジョン」による水上アクティビティ拠点の創出：気仙沼漁港(宮城県気仙沼市)

概要

- 「気仙沼の顔」である内湾地区から市庁舎移転後の跡地周辺のまちづくりを進めるため、市と官民の協議体である「気仙沼まちなかエリアプラットフォーム」によって、「気仙沼まちなかエリアビジョン」を策定（令和5年3月）。
- ビジョンの取組の一つの「目的地となる港づくり」として、賑わい創出や交流人口増加に向けて、地域資源である内湾の水面を様々なアクティビティを楽しめる場とすることで、これまで「食べる」や「観る」が中心であった観光の目的に「遊ぶ」の要素を付加し、新たな層の来街者の獲得を目指す。



海業の取組概要

気仙沼漁港・魚町岸壁周辺

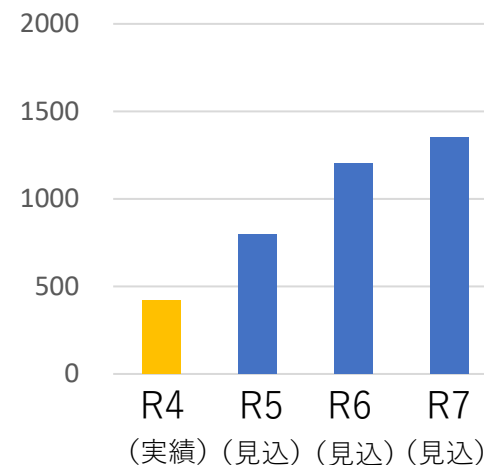


- ・令和4年度にデジタル田園都市国家構想交付金（旧地方創生推進交付金）を活用し、気仙沼まちなかエリアプラットフォームによる水上アクティビティ（水上自転車、ハンドパドルボート、水上ピクニック）の社会実験を3週間にわたって実施。
- ・漁港管理者（県）から市が占用許可を受け運営を気仙沼まちなかエリアプラットフォームが担った。同上の社会実験の期間中には、滞留空間の創出を目的に、漁港施設内の公園に漁網を使用したロングベンチも設置。
- ・同上の交付金により、令和5年度においても水上アクティビティの将来の常設化に向け、事業性の検証やさらなる安全性の確保、漁港利用の仕組みづくりの検討のため、事業候補者（民間事業者）による社会実験を予定。



期待される効果

水上アクティビティ参加者（組）

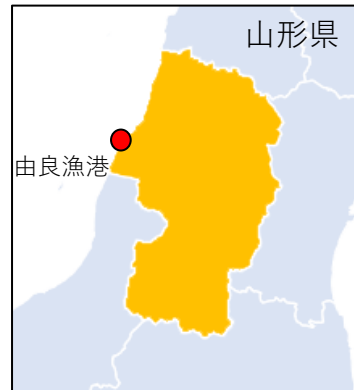


- ・令和4年度社会実験（水上アクティビティ）の参加者は418組
- ・常設化に向けて漁業と関連した企画、展示等を検討
- ・交流人口の増加による水産物の消費拡大を目指す

7. 漁村生活における様々な体験の提供をとおした交流人口の拡大：由良漁港（山形県鶴岡市）

概要

- 漁業就業者、観光客の減少による地域経済の衰退を抱え活気を失いつつあったこの地区では、整備された漁港や人工海浜、人工磯場などをうまく活用した地域再生を課題と捉えていた。
- 地元漁業者等の若手有志が、自治会や観光協会、漁業団体に呼びかけ、「再び訪れたいくなる、住みたいくなる、自慢したくなる“ゆら”」を目指し、由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」を結成。生産・流通、人材育成・確保、文化の継承、イベント、情報発信などを展開。
- コロナ禍にあっても、年間で、漁業地区人口の約7倍を超える交流人口を創出。ファンとなった来訪者がリピーターとなり、友人知人に紹介したり、体験型教育旅行の需要も発現。水産加工品の販売増などにもつながる見込み。



海業の取組概要

【漁業生産・流通】



イカー夜干し作り体験



ゆらまちっくの
ヒット商品
「鯛だしみそ」

市場性の低い小鯛に注目
新たな加工商品を開発
↓
漁港や近隣の協力店
などで販売
↓
所得向上・雇用の創出

マリンレジャー体験（釣り堀）



漁船クルージング



海中神輿



【伝統文化の継承】

主な取組

【漁業生産・流通】

魚食イベント、水産加工品開発販売、水揚魚のブランド化など

【後継者の育成・確保と女性活躍】

漁業体験、漁法DVD配布、地元女性による商品開発など

【伝統文化の継承】

都市住民との交流、海中神輿など

【各種イベントの開催】

寒鰯祭など魚食イベント、ビーチサッカー大会など



由良の11種類の
漁法を伝えるDVD製作



定置網体験



ゆらまちっく
海鮮レディース

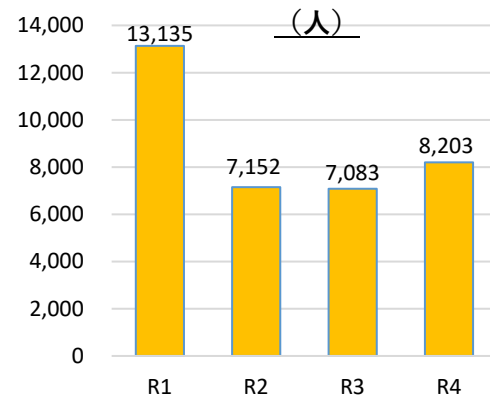
【後継者の育成・確保と女性活躍】



寒鰯づくし定食

【各種イベントの開催】

体験型イベント利用者数



効果

コロナ禍による減少もあったが、体験型イベント（釣り堀・漁業体験・食の体験など）の利用者は年間7千人以上。

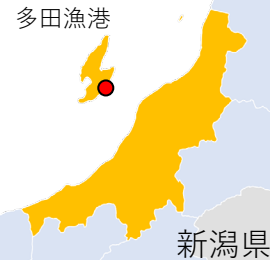
漁港地区人口の約7倍以上の交流人口を創出。（R2漁業地区人口：962人）

8. 海洋深層水を活用したエゾバフンウニの陸上養殖：多田漁港（新潟県佐渡市）

④漁港活用の増殖場

概要

- 年間を通して水温3°C前後と低く安定した海洋深層水を活用して、エゾバフンウニとその餌となるコンブの陸上養殖に取り組む。
- 新潟県は夏場の海面海水温が高くエゾバフンウニは漁獲されない地域であり、希少価値が高くウニ生鮮品が市場に流通しない時期に販売が可能。
- 令和3年11月より、民間事業者による実証実験が開始され、養殖期間は1年半～2年程度。（令和6年度以降事業化予定）



海業の取組概要



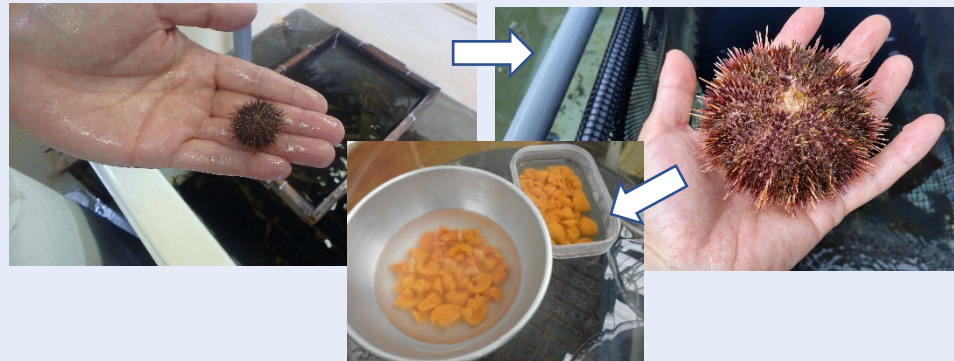
海洋深層水施設外観



海洋深層水施設内観



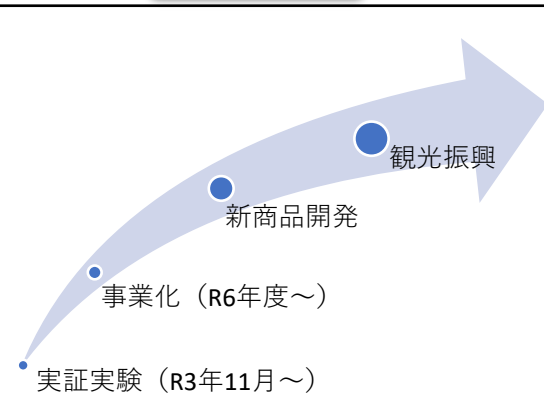
- エゾバフンウニ陸上養殖
ウニ種苗は岩手県洋野町から購入
餌を与えて成長させ身入りが良くなったタイミングで販売



- マコンブ・リシリコンブ陸上養殖（ウニの餌用）
完全養殖可能で栄養豊富な深層水と太陽光で成長
葉が伸びた部分を随時カットし、ウニの餌として利用
（天然藻場資源に影響を与えない）



効果



事業化による効果

- ・年間売上目標：1,000万円
- ・雇用者：常勤1名、非常勤2名

陸上養殖のため生産量は多くはないが、深層水の特성에あった高級食材エゾバフンウニを養殖することで、新たな雇用が創出され、新商品の開発や地元でしか食べられない観光の目玉として今後活用される可能性がある。

9. 防波堤の釣り場開放：姫津漁港（新潟県佐渡市）

概要

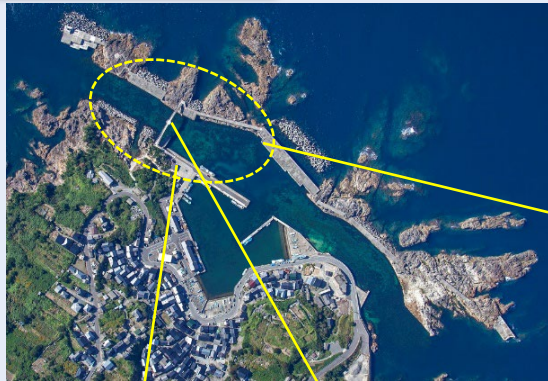
- 県管理漁港の姫津漁港では、漁港環境整備事業（H3～9）により、防波堤にかかる姫津大橋が整備され、渡った先の防波堤の天端に転落防止柵等の安全対策を施し、釣り場として無料で開放している。また、同事業では漁港区域内にトイレや遊歩道なども併せて整備している。
- 橋のためには漁協の加工場兼直売所もあり、加工品等が販売されている他、貸し釣り竿セットも取り扱っている。
- 年間1,000人程度の利用があり、釣り人などの来訪者が直売所や漁村の地域資源を利用することで地域水産業の活性化に寄与している。

姫津漁港



新潟県

海業の取組概要



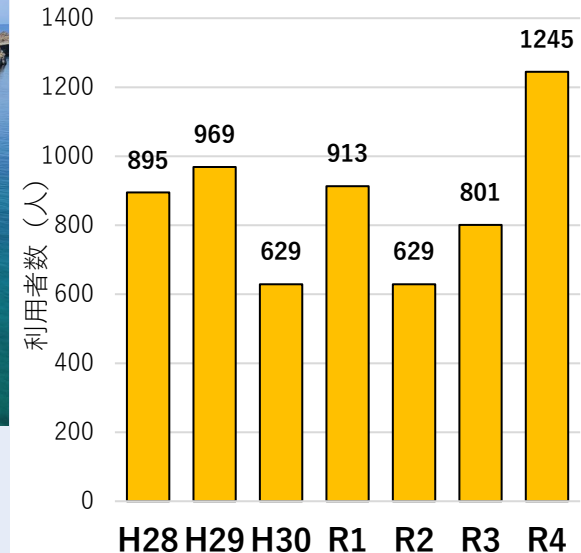
開放期間：5月～10月
開放時間：午前10時～午後4時
(荒天時は閉鎖)



- 釣り竿セットのレンタルもあり、ビギナーや手ぶらで来訪しても釣りを手軽に楽しむことができる。
- 安全対策として、橋への進入防止柵、防波堤の転落防止柵、はしご、救命浮輪を設置。
- 開放施設の進入防止柵の開閉や監視、清掃などの管理は、県から佐渡市に委託しており、佐渡市は漁協に委託している。

効果

姫津大橋 利用者数（人）



※R2,3はコロナの影響により、期間短縮
(5月休業、6月以降(月),(木)休み)

- ・年間1,000人程度の利用。
- ・釣り人などの来訪者が直売所や漁村の地域資源を利用することで地域水産業の活性化に寄与。

10. 石田フィッシャリーナを利用した地域活性化：石田漁港（富山県黒部市）

いしだ くらべ

②釣り・マリンジャー

概要

- 石田漁港では漁業生産の拠点地とするとともに、漁業者と遊漁者との利用調整を図りつつ漁港の持つ多面的な役割を果たし、地域の活性化に寄与することを目標として、市がプレジャーボート施設、釣り桟橋を整備し、管理運営している。
- 市内外からの漁港施設の利用者および訪問者を増やすことにより、地域の魅力を発信し、地域のにぎわいや雇用の創出を目指している。



海業の取組概要

※写真は指定管理者である、くろべ漁業協同組合「石田フィッシャリーナHP」より

●釣り桟橋の無料開放

- ・漁協が指定管理者となり、隣接するマリーナ施設とあわせて釣り桟橋を管理している。
- ・橋は陸地から170mの距離に位置しており、全長は77m、幅員は5mで、最大120名の利用が可能である。
- ・転落防止策や救命浮き輪、注意喚起看板の設置など、安全対策に努めた管理を実施している。



●フィッシャリーナ施設の利用促進

- ・ポートヤードには113隻、係留所には62隻の船舶が収容が可能。
- ・気象情報の的確な把握に努め、適宜上架を行うなど、安全な施設の利用を促進している。



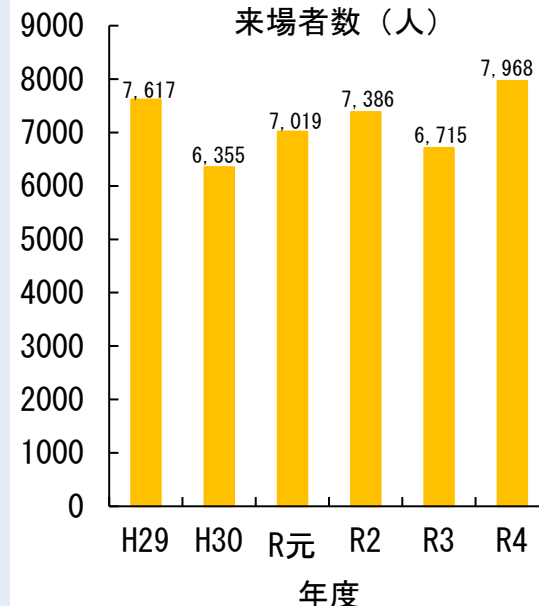
●セミナーハウスの活用

- ・R3年度に建て替えたセミナーハウスでは、釣り用具（釣り竿、ライフジャケット等）のレンタルや餌の販売を行っており、カフェや研修室が併設されている。
- ・施設内には管理人が常駐しており、釣りや気象情報に関する情報を随時発信し、利用者の利便性を図っている。



効果

石田フィッシャリーナ
来場者数（人）



- ・新型コロナウイルスによる行動制限の緩和や、R3年度に新築したセミナーハウスの利用等により、R4年度の来場者数は、過去6年で最多の来場者数（約8千人）となった。

11. 海洋レクリエーション拠点による漁村地域の活性化：水橋漁港（富山県富山市）

みずはし とやま

②釣リ・
マリンジャー

概要

- 漁港管理者である富山市では、漁港機能と隣接する位置にプレジャーボートの係留・保管施設及び親水防波堤を設け、漁村地域の活性化を図っている。
- 本漁港は、河川の河口に位置し、かつて河川内に見られた不法係留艇の適正な収容を促進することで、漁業関係者とプレジャーボートのトラブル解消に寄与している。
- 多目的広場や駐車場を含めた施設全体について、指定管理者により管理・運営しており、施設の点検、修繕など適宜実施できる体制をとることで、施設利用者の安全性・利便性を高めている。

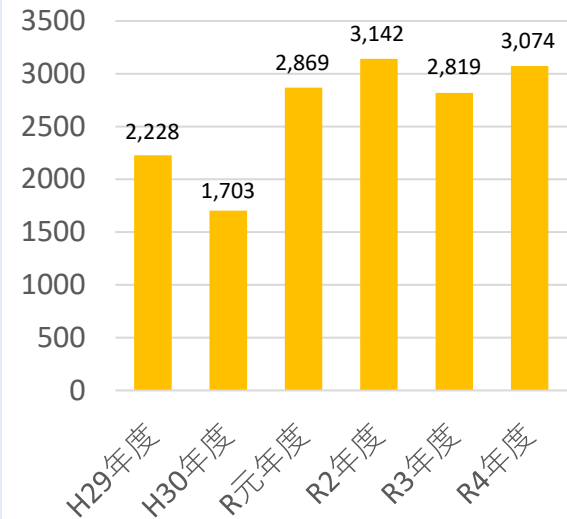


海業の取組概要

- 水橋フィッシャリーナ
 - ・平成23年7月供用開始。
 - ・水面係留ではビジター棧橋を有し、他地区から寄港できる。
 - ・富山湾や立山連峰の眺望が素晴らしい親水防波堤では、釣リや散策ができる。

効果

出港数（艇）



- ・密を避けたレジャーとして、コロナ禍においても出艇数は好調であり、係留・保管施設への収容率でも、ここ数年は、90%以上を維持し堅調である。



- 管理・運営
 - ・現在は、特定非営利活動法人が指定管理者として水橋フィッシャリーナの管理・運営をしており、親水防波堤の管理も行っている。
 - ・指定管理者による自主事業として、海釣り大会、プレジャーボートオーナーや地元園児による稚魚放流などを開催し、漁村地域の活性化に貢献している。



12. グランピング施設と地域資源を活用した漁村地域活性化の取組：氷見漁港（富山県氷見市）

概要

- 漁港施設用地内の未利用市有地を活用し、新たな来訪者を受け入れるため、市はグランピング施設を整備・運営する民間事業者をプロポーザル方式により決定した。
- 漁港施設用地内の比美乃江公園の海やみどりに恵まれた環境と富山湾越しの立山連峰の眺望などを活かし、昨今の旅行スタイルなどに対応することで新たな来訪者を受け入れ、まちなかや市内が賑わい、漁村地域の活性化に繋がることが期待される。



海業の取組概要

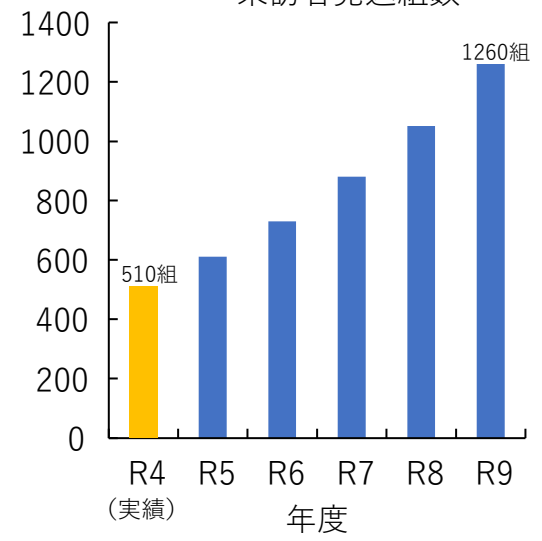


- 施設の運営主体：株式会社G & W Outdoors
- ・ひみ番屋街や氷見温泉郷総湯に隣接し富山湾を望む抜群のロケーションを活用したグランピング施設。
- ・BBQでは氷見漁港で水揚げされた寒ブリ、イワシを始めとする新鮮な魚介類や、氷見牛などの地元食材を提供。
- ・若者向け2棟、ファミリー向け3棟、スイート1棟と、多様なニーズに対応。



効果

グランピング施設
来訪者見込組数



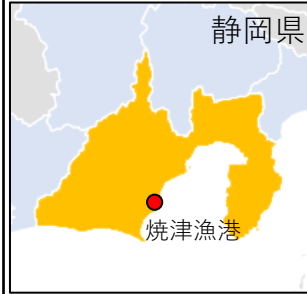
- ・初年度である令和4年度は宿泊客510組の利用あり。
- ・今後は新型コロナウイルスが落ち着いたことからテイクアウトやBBQも含めた更なる来訪者増を目指す。

13. 「漁具倉庫」等を活用した新たな観光需要への対応：焼津漁港（静岡県焼津市）

複合的な取組
①②③⑤

概要

- 漁協、商工会議所、観光協会、金融機関等が一体となって、遊休施設である「漁具倉庫」をリノベーションし、ワーケーションなどの新たな需要に対応した飲食・宿泊施設「焼津PORTERS」を整備。併せて水産加工業者が、地元の種類豊富な魚を調理・提供する漁家レストランを併設。
- 市、漁協、焼津PORTERSの運営者、水産加工業者が連携し、漁港内未利用地や休憩岸壁を利用した美食マルシェ・朝市等を開催。
- 魚市場の水揚げ・セリ見学、親水公園を活かした釣り体験および鰹節等のものづくり体験等の魚食文化推進プログラムを実施し、漁業者及び水産加工業者の所得向上に寄与。



海業の取組概要



漁港内の施設で水揚げやセリを見学

●焼津PORTERS

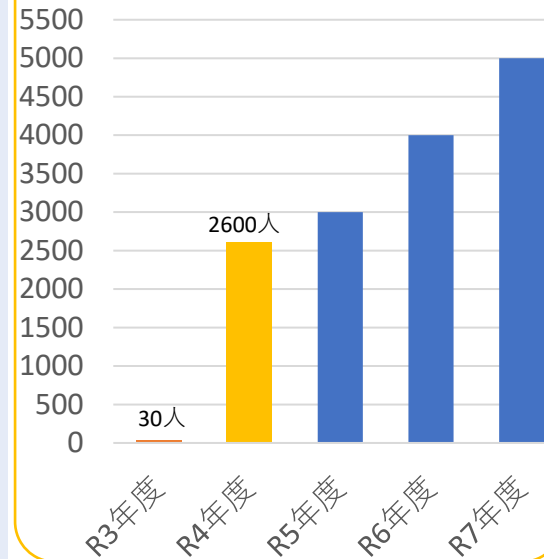
- ・漁協所有の遊休施設「漁具倉庫」（漁師が使っていた2階建て長屋）を、焼津らしさを体験できる滞在施設にリノベーションし、首都圏等からの人を呼び込むにぎわい交流の拠点として整備
- ・焼津PORTERSプロジェクトメンバーの一員として、焼津漁協が漁港区域内に所有していた漁具倉庫等を提供し、イベント開催などに協力

●焼津漁港

- ・焼津漁協は、水揚げ・セリ見学等を行い、来訪者との交流活動を実施
- ・水産女子、釣りガール、地域おこし協力隊OGをガイド役に遊漁船等の資源を活かした釣り体験、親子お造り教室、鮪の解体ショー等、地元漁師や地元の方々との交流活動を実施

効果

焼津PORTERS
来場者実績・見込数（人）



- ・R4の来場者実績は2,600人。
- ・焼津PORTERSを拠点にアクティビティ体験ツアー、直売・飲食事業を展開することで、地元漁業者及び水産加工業者の所得向上に寄与。

漁具倉庫

リノベーション



漁具倉庫ワーケーション拠点施設
「焼津PORTERS」



概要

- 関西国際空港の近隣に位置していることや、大阪市内から50分以内の場所に位置している立地を活かし、国内外の観光客を対象とした観光漁業を田尻漁業協同組合が実施。
- 大阪湾の魚や漁業の魅力を消費者に直接提供することを重視し、日曜朝市での漁業者直売や海鮮BBQ、漁業体験、海上釣り堀、マリーナ事業といった海業を取り入れながら地元水産物、養殖生産物の販路拡大を図る。
- これらの複合事業によって、実施している観光漁業の取組は、町の重要な観光政策となっており、浜の活性化はもちろん地域の発展においても重要な存在となっている。

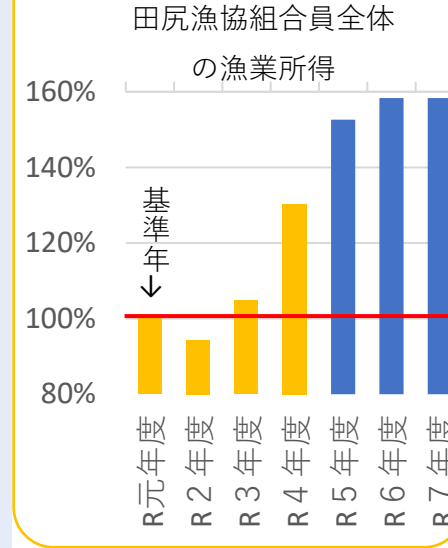


海業の取組概要



- 日曜朝市
 - ・漁業者が鮮魚などを直接販売し、店頭調理によりライブ感を演出
- 海鮮BBQの施設
 - ・荒天時や冬季においても営業ができるよう施設を開閉型にリニューアル
 - ・営業時間外であった12月から3月迄はカキ小屋を運営することで通年営業が可能
- 海上釣り堀
 - ・当初は時化の時に漁業体験に替わる場所として設置
 - ・釣り堀の対象魚を養殖魚にして魚の調達に力を入れ、海鮮BBQ事業と組み合わせることにより集客が増加
- 漁業体験
 - ・刺網漁やカゴ漁の体験などを実施
 - ・小学生の体験学習や企業研修等の利用有
 - ・下船後は漁獲した魚介類を漁業者に捌いてもらい、バーベキューを楽しむ
- マリーナ事業
 - ・レジャーボートやヨット、水上バイクなどの係留受入を行い、漁港内の水域を有効活用

効果



- R7年度にR元年度比58%向上を目標としている。（R4までは実績値）
- 漁港への年間集客数13万人。（R4年度時点）

15. クジラを核とした観光との連携：太地漁港（和歌山県太地町）

概要

- 森浦湾を網で仕切り、小型鯨類を海面いけすで放養、間近で触れ合うことのできるシーカヤック等のマリンレジャー施設を整備。
- 国道から太地町への入り口に「道の駅たいじ」を整備し、鯨肉や地元の水産物を活用したメニューの提供や鮮魚の朝市を開催。現在、来場者は年間約10万人。
- クジラを核とした地域資源を活用し、観光部局とも連携して、交流人口の増加を図り、地元水産物の消費増進により地域における雇用や所得を創出。



海業の取組概要

マリンレジャー



ふれあい体験



シーカヤック

●森浦湾でのマリンレジャー

- ・民間が行っていたカヤック事業を引き継ぎ、太地町漁協が運営
- ・森浦湾を海上遊歩道付きの網で仕切り、町、太地町開発公社、漁協が連携し森浦湾に小型鯨類の畜養いけすを設置
- ・シーカヤックやSUPなどによるクジラとのふれあい体験を実施
- ・漁業者等がインストラクターとして参画し、漁業以外の収入向上に寄与

道の駅たいじ



●道の駅たいじ（レストラン、直売所）

- ・森浦湾に隣接して太地町が整備し、漁協が指定管理を受け運営
- ・鯨肉をはじめ地元水産物を活用したメニューを観光客に提供
- ・定置網等で漁獲された地元水産物の朝市を開催、周辺住民のみならず観光客にも新鮮な水産物を販売
- ・また、漁業者、加工業者が協業し、干物や大和煮、燻製品などを開発して販売

直売所



地元水産物を活用した料理



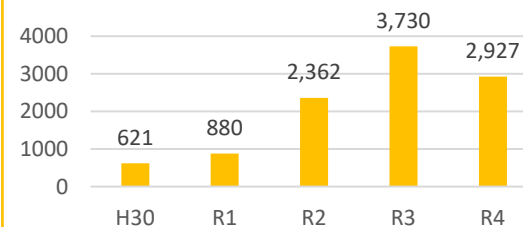
定置網



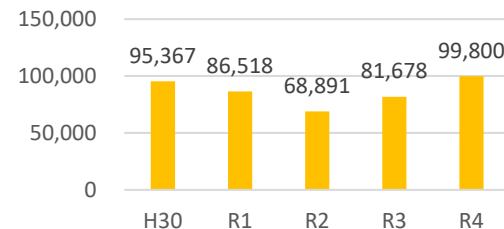
朝市

効果

・マリンレジャー利用者数（人）



・道の駅たいじ来場者数（人）



・今後、教育旅行の受入や渚泊などによるさらなる交流人口の増加を図っていく。

16. 漁港の未利用施設を活用した直売所等の取組：箕島漁港（和歌山県有田市）

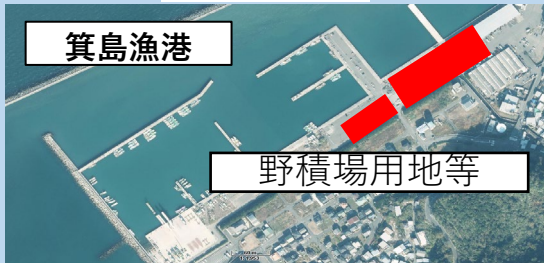
概要

- 箕島漁港では、漁業者数の減少もあり水産業での利用が低下。観光等での利用促進を検討。
- 常設の直売所を望む声があり、未利用となっていた野積場用地等を活用し、漁協直営の水産物直売所「新鮮市場浜のうたせ」を整備。
- 年間来場者数は約27万人と地域活性化に大きく寄与。



海業の取組概要

既存施設の利用



箕島漁港

野積場用地等

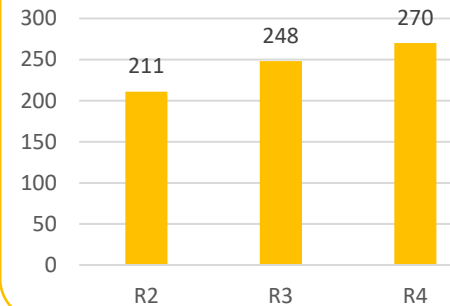
●水産物直売所「浜のうたせ」

- ・ 常設の水産物直売所の整備に向け、平成29年度に有田箕島漁協役員による検討委員会を設立。商工会議所、観光協会、金融機関、民間事業者等がメンバーに加わり、当該施設を有田市の観光業における中核施設としていくことを決定。
- ・ 未利用となっていた野積場用地等を活用し、漁協直営の水産物直売所「浜のうたせ」を整備。運営は漁協が行い施設内には、箕島漁港で水揚げされた水産物をはじめとして地元農産物や土産品を販売する物販コーナー、地元水産物を利用した食事を提供する食事コーナーがあり、いずれも地元で水揚げされた水産物を活用することで魚価の安定化や所得向上に寄与。

実施年度	令和2年度
活用した漁港施設	漁港施設用地（野積場用地等）
実施した手続き	長期利用財産の財産処分、漁港施設用地利用計画の変更

効果

浜のうたせ購買者数（千人）



直売等施設「浜のうたせ」



飲食コーナー

地元水産物を活用した料理



底びき網漁業



水産物販売



野菜・果物等販売



- ・ 令和5年度から新たな取組として、季節限定のバーベキュー施設を整備・運営、さらなる誘客を図る。

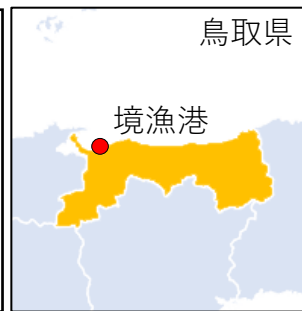
バーベキューコーナー



17. 境漁港におけるおさかなパーク・水産物直売センターによる交流人口の増加： 境漁港（鳥取県境港市）

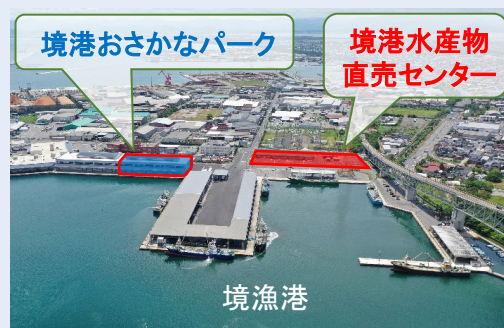
概要

- 鳥取県は境漁港を高度衛生管理型漁港・市場へと改修しており、あわせて境漁港の魅力向上と振興を進めるため、2号上屋の一部に展示施設を整備。水産物の水揚げやセリの様子を見学できるほか、近隣の美保湾に生息する魚を展示した展示水槽、食育イベントを開催できる調理実習室などを備えた。
- 山陰旋網漁業協同組合が境港水産物直売センターを改築し、令和4年4月にリニューアルオープン。市場で取引された新鮮で豊富な水産物を、衛生的で安全・安心な直売センターで販売、海外バイヤーとの商談の場とした輸出促進、境漁港・市場見学ツアー等市場との連携による地域の活性化を図る。



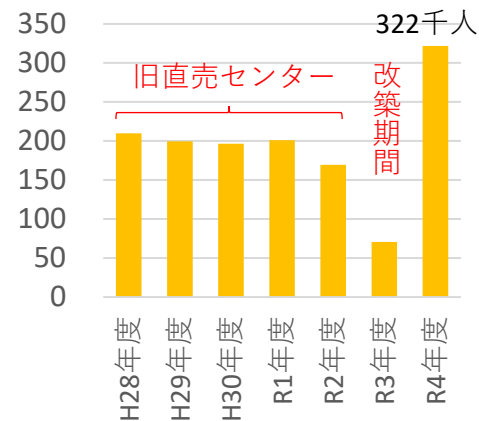
海業の取組概要

- ・「親しまれる漁港・市場」を目指し、鳥取県は、令和4年8月に2号上屋2階部分に見学や食育・体験型観光にも利用できる展示スペース「境港おさかなパーク」（愛称は一般公募）を整備。境漁港・市場や水産業への理解を深めている。
- ・水産物直売センターは、境漁港の魚市場から仕入れた鮮魚、カニ等を一般消費者向けに販売。リニューアルにより刺身等の調理が可能となり、その場で買って食べられるようになった。



効果

境港水産物直売センター来場者数（千人）



- ・調理実習室は令和4年8月のオープンから令和5年6月末までに延べ48組に利用され、今後も増加が見込まれる。
- ・直売センターには、県外からの来場が多く見られ、来場者数の増加につながっている。今後はインバウンド需要の増加も見込まれる。また、中国、香港からバイヤーが市場視察に訪れており、その後の商談の場としても活用されている。
- ・境漁港の水産物の衛生的な流通や利用方法を学んでもらうことにより、イメージが向上し、消費の増加が見込まれる。

項目	境港おさかなパーク（県）	境港水産物直売センター（漁協）
施設	展示ホール、見学通路、まぐろデッキ（売見学）、かにテラス（展望、漁船の水揚げ見学）、お魚調理実習室、研修室、会議室	約2000㎡（鮮魚11区画、ねり製品、土産区画、飲食テーブル、飲食店（屋内・屋外各1）。空調整備（鮮魚の温度管理）

地域連携
調理実習室では、家事シェアセミナー「ウエカツさんとウオカツ（上田勝彦氏）」、「さかな料理を楽しもう（和田明日香氏）」、「イカ学習イベント」等を実施。両者が連携したイベントを開催しているほか、漁港・市場見学ツアーに組み込まれている。



18. 漁協自らがプレジャーボート用浮棧橋「横田シップステーション」を整備・運営：横田漁港（広島県福山市）

概要

- 海洋レクリエーションの拠点として横田漁港におけるプレジャーボートの利用が増加したことにより、漁港内での漁船との接触事故、無秩序な水域施設の占有等が漁業活動への支障が生じていた。
- 本取組は、プレジャーボートの無秩序な水域の占有に対して、漁協が漁港漁場整備法第38条の漁港施設の利用の認可による施設使用料徴収及び同法第39条の漁港水域の占有許可を受けて、「漁協自らがプレジャーボート係留施設の整備・運営」をするという、経営の安定化と放置艇対策を同時に解決する全国的にも稀な取組。
- 近くにある漁協前では11～3月の土日祝に、漁師から直接魚を買うことができる『漁師の浜売り』を開催しており、プレジャーボート利用者も購入に来る等、地域住民の交流の場となっている。

複合的な取組
②③

効果

海業の取組概要

係留施設整備前(港内)



●横田シップステーション

- ・組合員をはじめ地域住民全てが、ウインウインの関係になることを目標に、当プレジャーボート施設を整備した。
- ・係船料を徴収することにより、組合収益が向上し、漁具の購入や漁業研修の費用に充てることができ、漁協経営の安定に繋がった。
- ・島内への交流人口増加により、地域のガソリンスタンドや飲食店等の売上げが向上し、島内の雇用が増加しており、地域全体の活性化につながっている。

係留施設整備後(港内)



- 係留施設整備と同時に放置禁止区域を指定し、供用開始後、区域内のプレジャーボート数は170隻から27隻と大幅に減少した。
- 整備前までであった船同士との接触事故や沈没は無くなり、水域施設の健全な利用が可能となった。
- 漁港施設へ無秩序に係留していたプレジャーボートの適正収容により、効率的な維持管理が実現し、漁船航行の円滑化や、水産物陸揚げ作業の効率化にもつながっている。
- マリーナ運営が新たな漁協の収益源となっており、漁協経営の安定化並びに、担い手育成に繋がる。

概要

- 人口250万人以上を抱える福岡都市圏に位置する糸島市では、船びき網や釣り、さし網など様々な漁業が営まれているが、冬季はシケが多く、出漁が困難な日が多い。
- 冬季の収入源確保としてカキ養殖を導入し、漁港内に仮設のカキ小屋の経営を試行。
- 糸島カキの認知度が高まり十分採算が合うと算段されたため、仮設のカキ小屋7棟を常設化。維持管理コストを削減し、客席数を増やすことにより、利用者の増加を図る（整備後の客数目標は33.9万人）。



海業の取組概要

- 養殖したカキ等の水産物を漁港内のカキ小屋で提供



- 船越漁港の仮設カキ小屋7棟を常設化
 - ・仮設ビニールハウスから鉄骨平家建てに変更（事業主体：糸島漁業協同組合）

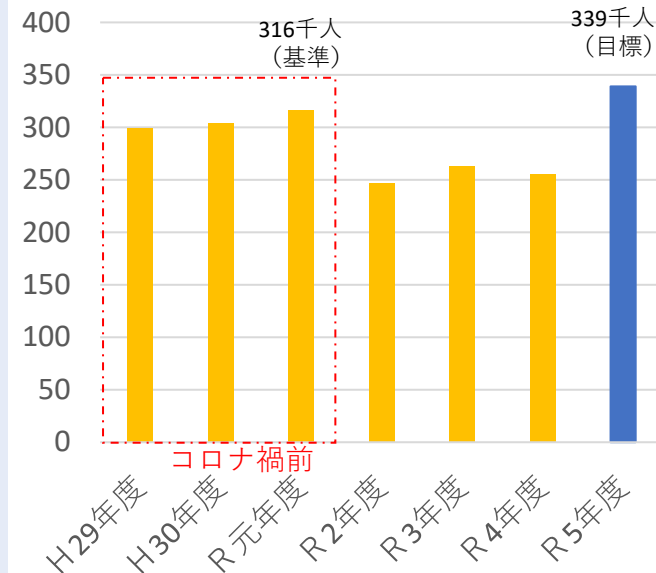


- カキ小屋常設化によるメリット
 - ・消費者に、より快適な空間でカキ等の新鮮な水産物を提供
 - ・仮設小屋の設置及び撤去に係るコスト削減
 - ・浄化槽の整備による、くみ取りコストの削減および衛生面の改善
 - ・客席数を増やすことで利用者の増加及び地域の雇用創出に貢献
 - ・カキ小屋の営業期間外においても地域水産物の提供が可能



効果

船越漁港
カキ小屋入込客数(千人)



客席数を増やすことで利用者の増加を図る。
R5年度目標：33.9万人(R元年度比+7.3%)

20. 漁村と市民が交流・ふれあいのできる場所の提供：脇田漁港（福岡県北九州市）

概要

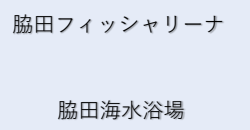
- 漁港内にある「ひびき海の公園」には、釣り桟橋、フィッシャリーナ、海水浴場、フィッシャーマンズ物産館「SIOIRI」、レストランなどがあり、多くの方々がレジャー、飲食を楽しみに来訪。
- 海釣り桟橋は遊歩道の両側に釣り台を備え付けた施設で、指定管理者として漁協が管理・運営。釣竿の貸出、エサの販売も行っており、手ぶらで来場しても釣りを楽しむことができる。
- 物産館「SIOIRI」では、地元で水揚げされた新鮮な魚介類を市場価格より安価で販売することで、北九州市内外から多数の来客を呼び込む。
- 令和5年度から官民一体となって設立した実行委員会企画のイベントで、来場者の増加を図る。



海業の取組概要

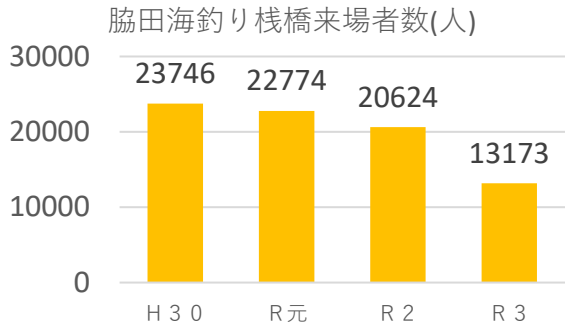
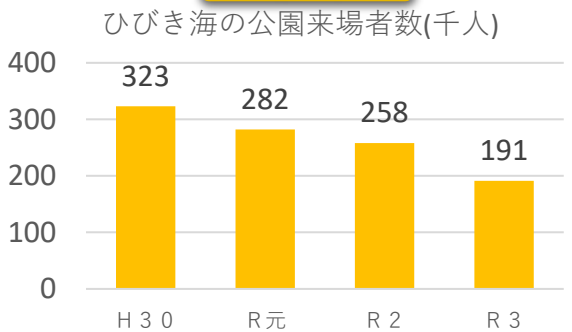


●フィッシャーマンズ物産館「SIOIRI」
 ・優れた実行力と豊富な経験・能力を有する民間事業者を公募し、民設・民営で事業を実施。R4.12リニューアルオープン。
 ・漁業者は、脇田漁港で水揚げされた水産物を、農業者は地元で採れた野菜などを消費者へ直接販売。
 物産館の他にも、レストラン、結婚式場を併設。



●ひびき海の公園
 ・市街地から気軽に行ける脇田海岸に、脇田海釣り桟橋（延長500m）、人工海浜、多目的広場、脇田フィッシャリーナ（プレジャーボート係留施設）、交流ふれあい施設（物産館）などを整備。家族連れのキャンプやペットの散歩など多くの来訪者でにぎわう。イベントなどの来訪者が増え認知度を上げることによって地区が活性化するとともに、若松区の活性化にも結びつけたい。

効果



・公園への来場者は19.1万人。
 ・市民の多種多様なレジャー志向により公園来訪者は年々減少しているが、R5年度から公園内でのイベント集客に力を入れており、今後公園来場者の増加が見込まれる。

21. 道の駅等と連携した水産物の販売力強化：鐘崎漁港（福岡県宗像市）

概要

- 漁協、農協、商工会、観光協会及び宗像市が一体となって「地域の産業振興」及び「地域外からの交流人口増加」の拠点として、「道の駅むなかた」を開設。現在、来訪者は年間170万人。
- 漁業者は、道の駅を利用して直接販売を実施。生産者主導の価格決定が可能であり、漁業者の所得向上に寄与。
- また、宗像漁協は、鐘崎漁港内に活魚センターを運営しており、水揚げされた活魚をセンター内の生簀に收容し、旅館や飲食店等からの注文に応じて活け締め、加工等を実施して販売。

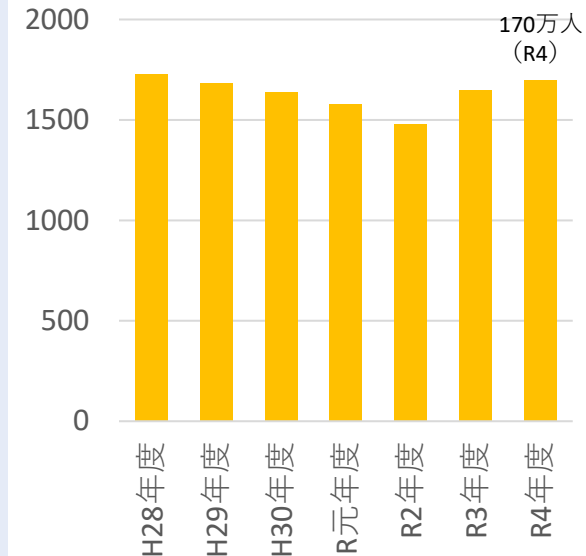


海業の取組概要

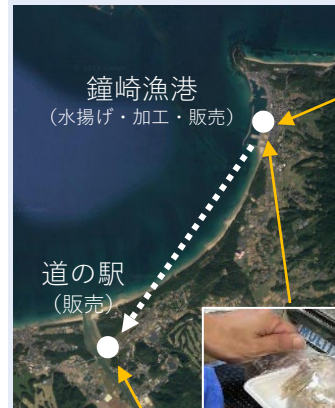
- 道の駅むなかた
 - ・ 全国有数の売り上げのある道の駅。売り場面積の約3分の1を水産物が占める。
 - ・ 漁業者は、鐘崎漁港で水揚げされた水産物を消費者へ直接販売
 - ・ (株)道の駅むなかたの取締役の一人として、宗像漁協代表理事組合長が運営に参画
- 鐘崎漁港／活魚センター
 - ・ 宗像漁協は、漁港内に活魚センターを設置
 - ・ 活きの良い魚をそのまま生簀で泳がせ、注文が入ってから活け締め、希望があれば三枚おろしにするなど、旅館や飲食店等の顧客ニーズに対応して販売。

効果

道の駅むなかた
来場者数（千人）



- ・ 道の駅への来場者は170万人。
- ・ 道の駅を利用した漁業者による直接販売は、生産者主導の価格決定が可能であり、漁業者の所得向上に寄与。



宗像漁協HPより



漁港内の共同利用施設でパッキングし、道の駅で販売

道の駅むなかた



道の駅むなかた（店内）

22. イルカと漁業が共存する観光振興と水産物の販売力強化：二江漁港（熊本県天草市）

ふたえ

あまくさ

複合的な取組
②③

概要

- 漁協や観光協会等の関係団体及び天草市が連携し、「水産・観光振興」及び「地域外からの交流人口増加」の拠点として、「道の駅 天草市イルカセンター」を開設。現在、来訪者は年間13万人にのぼり、地域の賑わい創出に寄与。
- 漁業者は、道の駅を利用して、新鮮な水産物を使用したレストランを運営したり、農林水産物とその加工品を販売したりすることで、漁業者の所得向上にも寄与。
- 地域の目玉であるイルカウォッチングをとおして、豊かな海づくりのための環境保全や生き物と人が共存する地域づくりについて、楽しみながら学習できる。



海業の取組概要

二江漁港



●道の駅 天草市イルカセンター

- ・ 指定管理者制度により漁協が運営する天草観光の拠点施設
- ・ 施設内には、地元の農林水産物や加工品を販売する直売所、レストラン、イルカウォッチングの総合窓口が設置され、交流人口の拡大だけでなく地域の雇用創出や後継者育成にも寄与
- ・ 漁業者は地元で水揚げされた水産物を消費者へ直接販売
- ・ 漁港管理者（熊本県）の補助用地と地元天草市の単独用地による交換手続を経て、市が地方創生拠点整備交付金事業を活用して整備



イルカウォッチング



イルカウォッチング総合窓口

道の駅 天草市イルカセンター



直売所



レストラン



効果

道の駅 天草市イルカセンター
来場者数・売上金額



23. 漁協直営施設を核とした漁港漁村地域の賑わい創出：目井津漁港（宮崎県日南市）

③ 飲食、販売

概要

○南郷漁協が、直営のレストランや漁業者自らが値段を決めて販売できる直販施設を整備し、地元水産物の消費拡大に貢献。年間レジ通過者数は約13万4千人（R4）。

○様々な水産物の旬の時期にイベントを実施し、近隣の飲食店と連携した地魚料理フェア等の開催により、「めいつ=魚の町」のイメージを定着させ、賑わいの創出や継続的な施設の利用を促進。



海業の取組概要



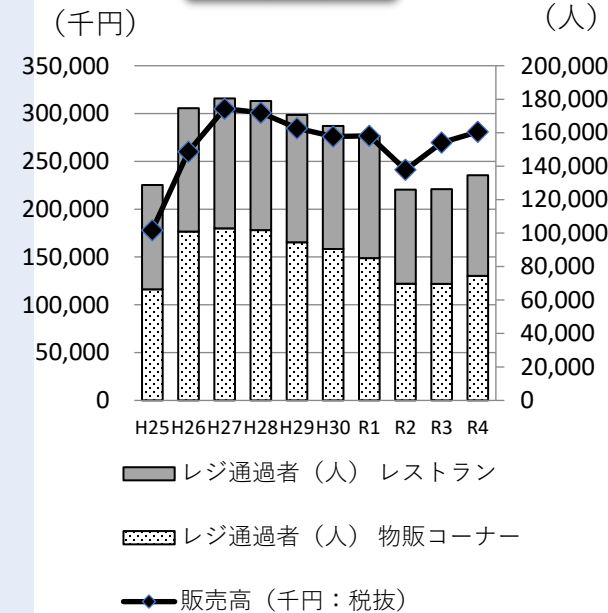
● 港の駅めいつ

- ・H17年に漁協直営施設としてレストラン開業。H26年に直販施設を増設。
 - ・レストランでは、地元どれの魚を使った海鮮丼や地元グルメの「かつお飯」など、様々なメニューを提供し、平日でも行列の絶えない人気の施設となっている。
 - ・直販施設では、漁業者が値段を決めて鮮魚を販売するスペースの設置や、総菜・加工品の販売などを実施。
- 写真左上：施設外観
写真左下：直販施設（店内）
写真右下：レストラン（店内）

● 各種イベントの開催

- ・港の駅めいつ創業祭（2月）
 - ・イセエビまつり（10月）
 - ・美々鰯*まつり（5月）*定置どれ鰯の地域ブランド
 - ・なんごう日の出市（隔月開催・写真右）
 - ・めいつ地魚フェア（写真左）、南郷かつおめしフェア、めいつ美々鰯料理フェア、日南一本釣りカツオ炙り重フェア 等
- 漁港近隣飲食店との連携により、使用する魚や値段を統一し、各店独自のメニューを追加して提供。各店の定休日が異なり、いつ来ても地元どれの魚が食べられる。

効果



・H26年に直販施設増設以降、年間平均販売高は約2億8千万円

・レストラン、直販施設では、年間約50トンの地元水産物の消費拡大に貢献



24. いーしま海人遊学による漁業体験学習の実施：具志漁港（沖縄県伊江村）

複合的な取組
①②

概要

- 伊江島内の民家宿泊体験事業の受け入れ客に対して、伊江漁協の協力による漁業体験「いーしま海人遊学」を実施。
- 修学旅行や一般観光の宿泊客に対して、釣り、追い込み網等の漁業の各種体験を実施。
- ハーリーと呼ばれる小型の漁船を使ったレースを体験でき、伊江島の漁師の文化の学習も可能。
- 当該取り組みは、具志漁港内の伊江漁協観光部会を拠点として実施。



海業の取組概要



●民家宿泊体験事業とは

- ・（社）伊江島観光協会が実施している島内の民家体験で、受け入れ家庭の様々な家業（農業・漁業・商業等）の手伝いや体験の中で、生のままの島人の暮らしを体験できる。
日帰り、1泊2日、2泊3日とニーズに合わせ様々なプランを提供している。

●いーしま海人遊学とは

- ・伊江島独自の漁師体験プログラム。伊江島の海人が、長年漁業で培ってきた知識や技、そして海での勘を伝えるために完成させた。
- ・伊江島の海人は、漁師体験プログラムを基に釣り、追い込み網、ハーリー等を体験学習させる。

●具志漁港

- ・伊江漁協は、具志漁港内に観光部会を設置。
- ・観光部会を中心に、具志漁港を拠点とする海人と連携して「いーしま海人遊学」による都市漁村交流活動を実施。

効果

民家宿泊体験受入実績

（「いーしま海人遊学」による漁業体験者を含む）

年度	学校数	人数	備考
平成15年度	3	317	
16年度	14	1,458	
17年度	36	3,546	観光協会民泊部会設置
18年度	81	10,320	漁業体験学習開始
19年度	121	15,955	
20年度	125	20,977	
21年度	226	28,798	
22年度	244	32,697	
23年度	295	43,409	
24年度	297	42,661	
25年度	308	47,617	
26年度	313	49,293	
27年度	327	50,932	
28年度	316	43,635	
29年度	307	43,205	
30年度	291	45,497	
令和元年度	288	39,579	
令和2年度	5	440	新型コロナウイルスで民泊中止
令和3年度	11	1,036	新型コロナウイルスで民泊中止
令和4年度	72	9,882	民泊の再開

- ・平成15年度より本土の高校生を中心に民家宿泊体験を導入し、平成18年度より漁業体験学習を開始した。
- ・平成23年度以降は4～5万人で推移していた。令和2～3年度は新型コロナウイルスの影響で民泊を中止したが、令和4年度から再開し、1万人まで回復してきている。